

## 21. 修羅

修羅は重たいものを運ぶソリのような運搬道具です。この修羅は藤井寺市の三ツ塚古墳の堀から出土したもので、全長約 8.8m、重さ 3 t もあります。材質はアカガシで、大きな二股に分かれた一本の木で作られています。また、うしろにあるやや小さな修羅と一緒に出土したもので、長さ 2.8m のものでクヌギの二股に割れた 1 本の木で作られています。

古墳をつくる時、この修羅に大きな石や石棺をのせて運んだのでしょうか。修羅には穴が所々に開けられており、修羅を引くためや上に載せたものをロープで縛るための穴と考えられます。実際に荷物を運搬するときには、修羅の下に丸太を引いてコロにして、ひき易くしたことも考えられます。梃子棒（てこぼう）はうしろから差し込み、修羅の向きを操縦した道具です。

こうした木製品の保存処理は、様々な技術開発によって木製品の水分をすべてポリエチレングリコールという薬品と置き換えることによって、もとの形のままで保存が可能になったものです。この修羅は、14 年の歳月をかけて保存処理が行なわれ、現在この場所に展示しています。